

身近なものに関わり 感性を育む

国公幼 2年間の研究成果まとめ報告書

全国国公立幼稚園・こども園長会（会長 高橋慶子・東京都目黒区立みどりが丘こども園園長）は令和4・5年度の2年間、「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」身近なもので作って遊んで親子

親子で作って遊ぶ 生活体験を豊かに

研究のねらいは、生活の中にある身近なものを利用して「作って遊ぶ」ことを通して親子の触れ合いを広げるとともに、その中で「限りあるものを大切に」という意識を高めることと生活体験を豊かにしていくこと。

研究1年目は、全国の国公立幼稚園・こども園の保育者と保護者を対象とした実態調査を実施。その結果を基に、幼稚園・こども園や家庭、地域において「子どもの豊かな感性を育む」ための提言をまとめた。

提言は、①遊びや生活の中で身近なものに関わり、いろいろな素材に親しんだ

報告書では、提言1、2、3それぞれに基づく実践事例を紹介している。特別事業委員が事例を持ち寄り、検討した上で各提言にふさわしい事例を選んだ。これら実践事例を参考に、全国それぞれの地域や園・家庭の実態に応じた取り組みを進めてほしいとしている。

京花紙丸めてブドウ 廊下の壁面に飾る

提言1に基づく実践事例は、3歳児9月の「おいしいブドウを取りに行こうよ」。園にあるビニール袋や京花紙、セロハンテープなどを使い、作って遊ぶことを楽しんだり、作ったもので友達とやりとりしたりして遊ぶように素材を用いるとともに、子どもの手に届く高さの廊下の壁面にブドウをつるを模した壁面装飾を作ったところから始まった。

3提言に基づく実践事例を紹介

新聞紙をフライングディスクやコマに

提言2に基づく実践事例は、4歳児11月の「おうちの人と一緒に新聞紙で作って遊ぼう」。参観を兼ねて親子で一緒に製作活動をした

造形活動通した学びでグループトークなど

提言3に基づく実践事例は、地区PTA連絡協議会

担任保育者が作り方や遊び方を簡単に説明すると

研究を通してまとめた

「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」の報告書の表紙



「身近なものとの関わりを通して子どもの豊かな感性を育むための調査研究」の報告書の表紙

子どもたちは自分なりに京花紙を丸めてセロハンテープで留め、ビニール袋に

詰めて自分のブドウを作ることを楽しんだ。出来上がったブドウは壁面のつるに飾った。その後、ごっこ遊びの中でブドウ狩りをしたり、ままごごのこまごまごにしたりしていた。

保護者からも「楽しそう」と声が上がった。それぞれも園の役割について、遊びや生活の中で、身近な素材を利用している。いろいろな素材に親しむ機会を増やす。身近なものに関わり、生活体験を豊かに育む。

特別事業委員会の足立委員長は「『身近なもので作って遊ぶ活動』は園での経験が遊びにつながる、今後ものづくりへの興味・関心・意欲に結び付くことが分かった。調査・研究の内容を今後の各園での実践に生かし、子どもたちの豊かな感性を育む取り組みを続けていってほしい」と話している。